

各 位

浦安鐵鋼団地協同組合
景況実感調査委員会

浦安鐵鋼団地景況実感調査結果表
(2024年10月分)

ご協力ありがとうございました。2024年10月分の結果をお送りいたします。よろしくご査収ください。

調査対象 143 回答 137 回答率 95.8%

調査項目	前 年 同 月 比					計
	10%以上 増加・上昇・好況	やや 増加・上昇・好況	横這い・平常	やや 減少・下降・不況	10%以上 減少・下降・不況	
売上数量	12社	23社	49社	30社	23社	137社
	8.8%	16.8%	35.8%	21.9%	16.8%	
	(9.4)	(12.3)	(32.6)	(24.6)	(21.0)	
売上高	14社	19社	50社	31社	23社	137社
	10.2%	13.9%	36.5%	22.6%	16.8%	
	(8.7)	(15.2)	(31.9)	(26.1)	(18.1)	
在庫数量	10社	28社	57社	24社	14社	133社
	7.5%	21.1%	42.9%	18.0%	10.5%	
	(8.3)	(19.7)	(43.9)	(22.0)	(6.1)	
販売単価	5社	29社	60社	40社	2社	136社
	3.7%	21.3%	44.1%	29.4%	1.5%	
	(5.1)	(20.4)	(51.8)	(18.2)	(4.4)	
収益状況 (粗利)	6社	33社	44社	36社	18社	137社
	4.4%	24.1%	32.1%	26.3%	13.1%	
	(7.2)	(17.4)	(32.6)	(29.0)	(13.8)	
稼働率 (生産・加工設備)	6社	17社	52社	27社	16社	118社
	5.1%	14.4%	44.1%	22.9%	13.6%	
	(2.5)	(10.0)	(47.5)	(27.5)	(12.5)	
入出庫の トラック台数	6社	16社	57社	38社	14社	131社
	4.6%	12.2%	43.5%	29.0%	10.7%	
	(3.0)	(8.2)	(44.8)	(33.6)	(10.4)	
現在の 景況感	2社	6社	51社	50社	26社	135社
	1.5%	4.4%	37.8%	37.0%	19.3%	
	(0.7)	(6.6)	(33.6)	(39.4)	(19.7)	
3ヶ月後の 景況予測	1社	13社	82社	29社	10社	135社
	0.7%	9.6%	60.7%	21.5%	7.4%	
	(0.7)	(8.8)	(61.8)	(23.5)	(5.1)	
特記事項						

- 注 ①調査対象会社数は浦安に事業所の無い会社（不在地主など）は除外してあります
②()内の数字は前月のパーセントです
③結果表は全品種の動向として集計し、品種別の要因を取り上げる必要がある場合は
特記事項欄に別途記載いたします
④本調査の宛先等の変更は、浦安鐵鋼団地協同組合事務局までご連絡ください
事務局 TEL : 047-350-5311 FAX : 047-350-5316

景況実感調査(2024年10月)特記事項

毎月、景況実感調査にご協力頂きましてありがとうございます。集計結果は別紙にてお送りしましたが、今月もたくさんのコメントを頂きましたのでお送りします。ご査収下さい。

【お断り】寄せられたコメントは、各社担当者の現場の声です。個々の会社固有の状況にもとづくものも多々あります。業界全体及び浦安鉄鋼団地全体の見解とは必ずしも一致しませんので、お含み置き願います。また、不穏当な表現やわかりにくい表現については書き直しております。信用問題にかかわるものも原則として掲載しておりません。

薄板・表面処理鋼板

- ① 10月は自動車の価格改定もあり売上は伸びなかったが、加工量は上昇した。各需要動向の見通しは良くないが、商社系流通の再編が進み、実需の割には加工の依頼は増えているように感じる。
- ② 需要停滞は継続中だが、当社の10月販売は鋼板販売のメインである冷凍ショーケース向けが10月～11月に生産ピーク期に入っており、好調に出荷している影響で販売量も、売上も前年同月比並みをクリアした。ただ市況的には安価な輸入材、電炉材の影響でジワジワ下がり続けている。
- ③ 短納期、納期集中で忙しく感じたものの均せば稼働は減少。荷動き、価格も弱いがどうにか足元は耐えている。好転の兆しは感じられない。
- ④ 全般的に悪く、店売りマーケットは深刻という話を聞くが、数字的には悪すぎることはない実感する。ただ、販価は軒並み下がるので採算確保はできていない。赤字販売もある。

中板

- ① 中板は依然として需要に回復の兆しは見られず、先々の安値玉入荷を見据えて弱含みじり安が続く。各社とも在庫コントロールでの我慢が見られ、大幅な安値売り込みは無いが、小幅のじり安が止まらない状況。

厚板

- ① 建設機械は減産が顕著になり売上も減少。店売り関連は鋼材の高騰、人手不足等の影響もあり、売上も非常に減少している。
- ② 全体感としては9月に引き続き低位横ばいの状態が続いている。ただし、橋梁免震では物件の一部保留解除があり、前月に比べると数量は若干多くなった。リサイクル系の機械物件を受注できたが、機械自体が小さくなり作業する手間が増えた。建築の設備関係の一部で客先が忙しくしているものがある。
- ③ <全体感>紐付き、店売り共に低位横這いが継続しており、需要に盛り上がりはない。スクラップの下落や東鉄の値下げ等、市況の下げ要因が懸念されている。しかしながら、需要自体が少ないため価格を落としてまで販売する動きもなく、それにより相変わらず在庫も高く、先行き不透明感は強いままとなっている。<分野別>建設機械は国内向け、輸出ともに販売不振により下期に入り減産調整。長期的に見ても暫くは調整局面が続く形となっており、当面は苦しい環境が継続すると思われる。産業機械も同様。自動車を始めとした各分野で需要が落ち込む中、ユーザーの設備投資意欲は薄く、販売面で苦戦が続いている。店売り分野も言うまでもなく、荷動きは総じて鈍い。

— 舟安开形鋼 ・ H开形鋼

- ① 前年同月比で営業日数は 1 日増えて、調査項目は総じて横這いとなり得た現況に注目すべき。需要喚起が目下最大の願い。8 月以降の地合いは変わらず、建築関係ユーザーとて同じで、赤字会社が増えてきている状況には注意したい。
- ② 弊社は土木がメインの商売であり、H 形鋼、特に大型サイズが 10 月後半から動き始めたが、一般形鋼は先月と同様に荷動きが悪いままであった。今後の需要に期待。
- ③ 稼働日数の影響もあるが、H 形鋼は堅調で歯抜けが増加傾向。一般形鋼は荷動きに迫力が欠ける。引き続き実需に則した仕入れに徹する。
- ④ 建築資材高騰、人件費高騰により建築現場の見直しが多くみられる。来年は厳しくなりそう。

異形棒鋼

- ① 倉出しは 10 月、11 月も当用買い中心は変わらないが、若干量は出ている。各現場の人手不足から加工が多い。販価は横這い。
- ② 1 か月間をまとめてみると前月より荷動きが回復したが、実感はない。市況は荷動き不振の影響で表面上横ばいだが、新規物件価格は下落している。

平鋼

- ① 8 月が日量、総量とも今年最低であった。9 月からスクラップなどが値上がり傾向に転じ、見積り・受注が若干増えてきた。中小物件の新規が少なく建築向けは低迷。
- ② 10 月は 8 月、9 月の悪い流れのまま突入し、低位横這いで推移。一部特約店からの在庫補充はあったが、全体的に荷動きは悪い。社内加工も 9 月に比べれば受注量は伸びているが、短納期小ロットが多く、忙しいだけで数字は伸びていない。建機や産業機械向けも夏場のような忙しさは無くなっている。このままの状態で見越しをすと思われる。

車巻開形鋼

- ① 店売りが低調なため秋になっても日当りは横這い。営業日数の多さに救われた形となった。
- ② 年末まで好転は見込めず、横這い継続。

鋼管

- ① 日当り出荷量は増加したが、10 月としては低調であり、特に配管類は建築の悪さから前年を下回っている。
- ② 9 月に比べると荷動きは活発になりつつある。関東地区、首都圏の大型物件は夏休み以降、確実に動き出している。ただし、中小物件は人手不足、単価上昇等で納期ズレが多く、それを得意とする問屋からの引合い・取引は弱い。

構造用鋼

- ① 需要については、自動車関連で停滞感が続いており建機、産機も振るわない状況。工作機械も低調。店売りも低位横這いが続く。在庫は出荷量が伸びずやや多めの状態。価格は、下げても数量が動かないため、横這いで推移。

磨き棒鋼

- ① 自動車、建機、産機向けは軒並み低迷中。特に自動車向けは、秋口以降もう一段階調整局面が深まってきている。店売り品は底を脱してはいるが、浮上の様子はなく、今後も大きく変動する見込みはない。

その他

<異形バーインコイル・ナマシ鉄線>

- ① 本来であれば「秋需」の繁忙期だが、今年もその様子は見られず、荷動きは悪い。値上げ、価格転嫁も道半ばだが、まずは現行値維持に努めたい。

<鉄スクラップ>

- ① メーカーの大幅な減産、スクラップ量も低調。低空飛行の様子見状況が続いている。

<金属表面処理>

- ① 10月は紐付き、スポット共に良かったが、足元は引き合い低調となった。大型物件も少ないので厳しい状況。